



現行CiNiiから見た CiNii Research

2020年11月6日（金）

国立情報学研究所 学術情報基盤推進部

学術コンテンツ課

阪口 幸治

現行CiNii担当者としての素朴な疑問

1. CiNii Researchは、GeNiiの再来か？
2. 研究データを対象としたサービスを新しく追加すればよいのでは？

CiNii ResearchはGeNiiの再来か？

●画面例 (GeNii総合検索システム)



どのサービスに
何件求める情報が
あるかが分かります



各サービスの
求める情報へ
ナビゲート

GeNiiは、検索キーワードを各サービスに投げて、検索結果の一覧を表示し、ナビゲートするサービス。

2014年3月31日で終了

CiNii ResearchはGeNiiの再来か？

現行サービスでは・・・

● サービス解説

CiNii Articles ←



論文情報

学術雑誌や研究紀要の中から論文を検索。
引用情報から関連論文を追跡することもできる、論文情報ナビゲータ。

CiNii Books ←



図書・雑誌情報

連想検索機能という強力かつ柔軟な検索機能をもりこみ、
必要な図書を効率よく発見できる、図書情報ナビゲータ。

KAKEN ←



研究課題・成果情報

科学研究費補助金による、あらゆる分野の研究活動における
最新成果を検索できる、科学研究費補助金データベース。

CiNii Dissertations ←
(NII-DBRの1DBだった)



専門学術情報

国内の学会、研究者、図書館等が管理する各種専門データベースを
複合的に利用できる、学術研究データベース・リポジトリ。

IRDB ←



機関発信情報

国内の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に
検索できる、機関リポジトリポータル。

GeNiiのサービス

1. GeNii自身は各サービスのメタデータを持たない。
2. 検索キーワードを各サービスに投げて、サービス毎に数件の検索結果を表示する。
3. 検索結果から、利用したいサービスをナビゲートする。

⇒CiNii ResearchはGeNiiの再来か？

CiNii ResearchとGeNiiは、以下の点が違う。

1. CiNii Researchはそれ自身メタデータを持ち、各サービスのメタデータを検索結果に表示する。
2. CiNii Researchは、各サービス間のメタデータに関連性を持たせ、リンクさせている。

⇒各サービスにナビゲートするのではなく、各サービス間のメタデータ的相关性をナビゲートする。

1. 元々CiNiiは論文検索サービスだった。
2. その後、CiNii Books、CiNii Dissertationsが公開され、元々のCiNiiは、CiNii Articlesになった。

⇒研究データの検索サービスを、新しくCiNii Familyに追加すればよいのでは？

研究データを対象としたサービスを新しく追加すればよいのでは？

1. 研究データそのものの検索サービスも重要。
2. 研究データとそれを利用した論文等との関連も重要。

⇒研究データのメタデータと、既存のCiNii等のサービスとのメタデータの関連性を持たせ、リンクさせている。

1. 更なるメタデータの関連性の拡充

メタデータの関連性は、CiNii Researchの肝であり、名寄せ精度を上げるなどして、関連性を拡充していくことが必要。

2. ユーザビリティ志向のデザインの維持・向上

論文、図書等の色々な資料種別を包含しており、既存の各CiNiiのサービスが持っていたユーザビリティ志向のデザインの維持・向上していく必要。

3. メタデータの項目の拡充

論文、図書等の色々な資料種別を包含しており、利用者が必要としている情報を表示するためには、メタデータの項目の拡充が必要。